

2024年2月5日

日清製粉ウェルナ 製品ライフサイクルにおける 環境影響の算定手法を評価指標として国内食品メーカーに先んじて導入 ～消費者とともに持続可能な社会の実現を目指します～

日清製粉グループの株式会社日清製粉ウェルナ（取締役社長：岩橋 恭彦）は、製品の原料調達から廃棄までの製品ライフサイクルにおける環境影響の算定手法「製品ライフサイクルアセスメント（以下製品LCA）」を製品・施策の評価指標として、国内食品メーカーに先んじて導入します。

導入にあたり、検査・検証・試験およびISO認証業界において世界的なリーディングカンパニーであるSGSの日本法人SGSジャパン株式会社により、「パスタ乾麺」「パスタソース」「冷凍パスタ」「プレミックス」の4つの家庭用製品カテゴリーを対象にした算定方法について、2023年7月にその妥当性評価を受けました。

当社は今後、製品LCAを活用した環境配慮型製品の開発を進めていきます。また、CO₂e排出量などを消費者へ積極的に情報発信することで、消費者と共に持続可能な社会の実現を目指します。【別紙 参照】

■ 製品LCAによる「二酸化炭素相当量」を算定 製品開発や消費者啓発へいかす

近年、SDGsの達成に向けた企業の社会的責任として環境・社会問題への対応が必須とされる中、サプライチェーン全体における環境評価も重要になっています。

そこで当社は、製品LCAにより二酸化炭素相当量（CO₂e）^{（※1）}を算定し、製品・施策の評価指標として導入することとしました。製品LCAにより「製品ライフサイクルの各段階におけるCO₂e排出量」が見える化できるため、「プラスチック使用量は削減したが、製品ライフサイクル全体のCO₂e排出量が増加した。」といったことを発生させないように、環境配慮型製品の開発指標などに活用できます。さらに、消費者が関わる「調理・喫食」段階における環境への影響も見える化されるため、これらの情報発信を通じて、消費者と共に環境負荷低減へ取り組むことを目指します。

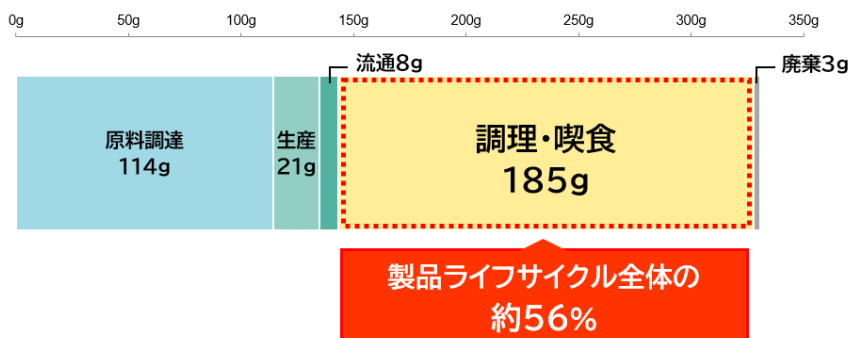
（※1）地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出量を指す単位で、温室効果ガスの発生量を二酸化炭素（CO₂）の発生量に換算したものの

■ スパゲティのCO₂e排出量の半分以上が「調理・喫食」段階から

例えば「マ・マー チャック付結束スパゲティ 1.6mm(以下 標準タイプ)」を製品LCAによって算定した場合、製品ライフサイクルでのCO₂e排出量は「調理・喫食」段階が最も多く、全体の約56%も占めることが分かりました。【下記図 参照】

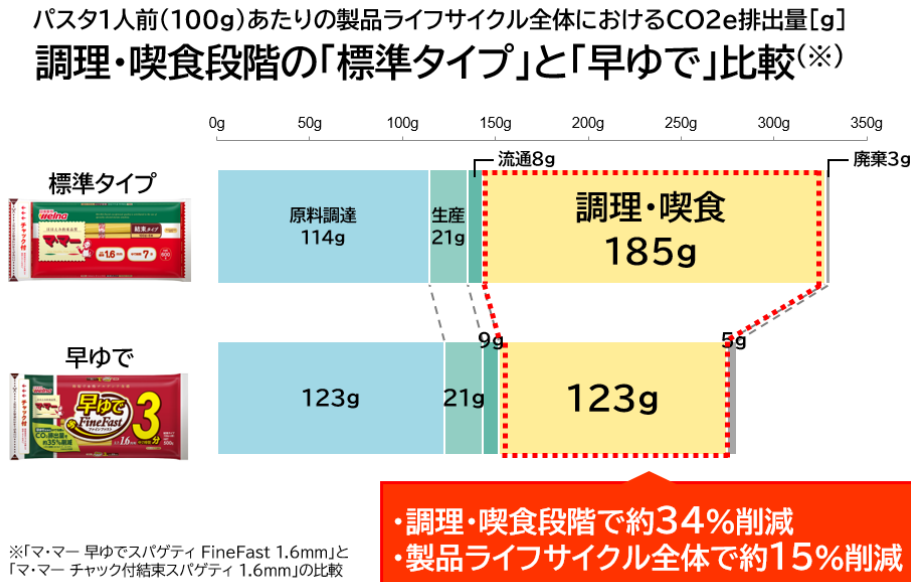
パスタ1人前(100g)あたりの製品ライフサイクル全体におけるCO₂e排出量[g]

「マ・マー チャック付結束スパゲティ」の場合



そこで、調理時間が短い「マ・マー 早ゆでスパゲティ FineFast 1.6mm(以下 早ゆで)」と「標準タイプ」を比較したところ、CO₂e排出量は「調理・喫食」段階では約34%、製品ライフサイクル全体では約15%削減されることが分かりました。【下記図 参照】

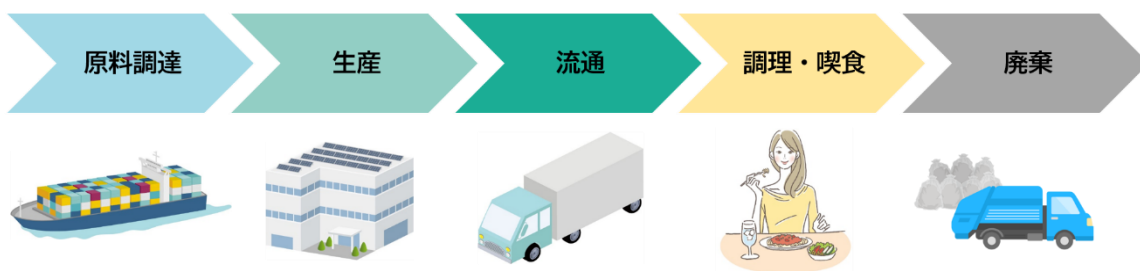
つまり、消費者が「早ゆで」を使用することは、各ご家庭での環境負荷低減への貢献に繋がります。



■参考) 製品ライフサイクルアセスメントについて

製品の原料調達から廃棄までの製品ライフサイクル全体における環境影響の算定手法で、CO₂e排出量を算定対象とすることが一般的です。算定は「国際基準」を参考に「資源消費」「エネルギー使用量」「ごみの排出量」などを考慮し、透明性と信頼性のあるデータを使用することで第三者による妥当性評価を得られます。

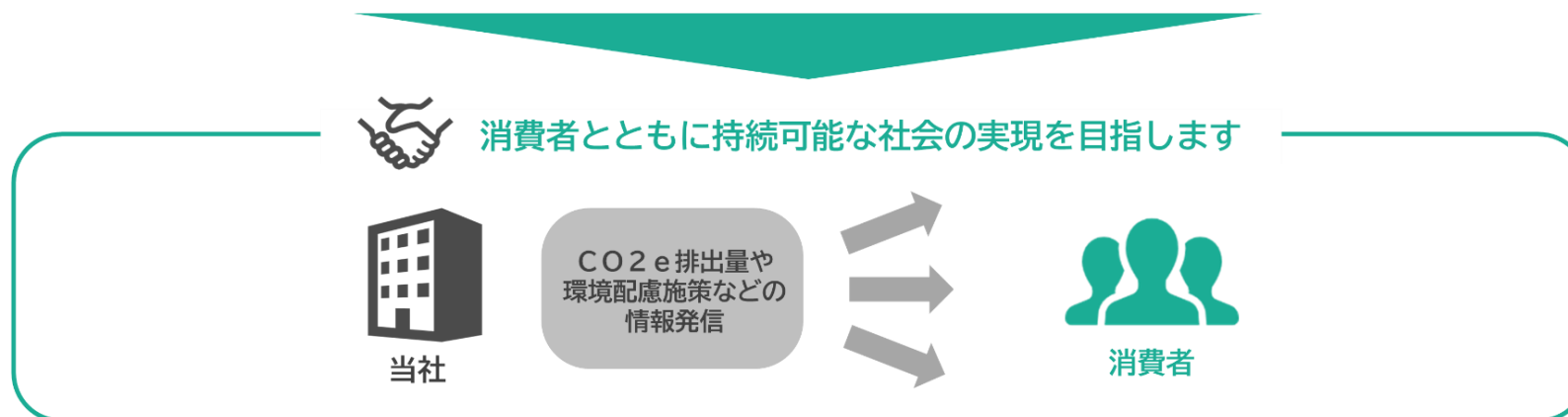
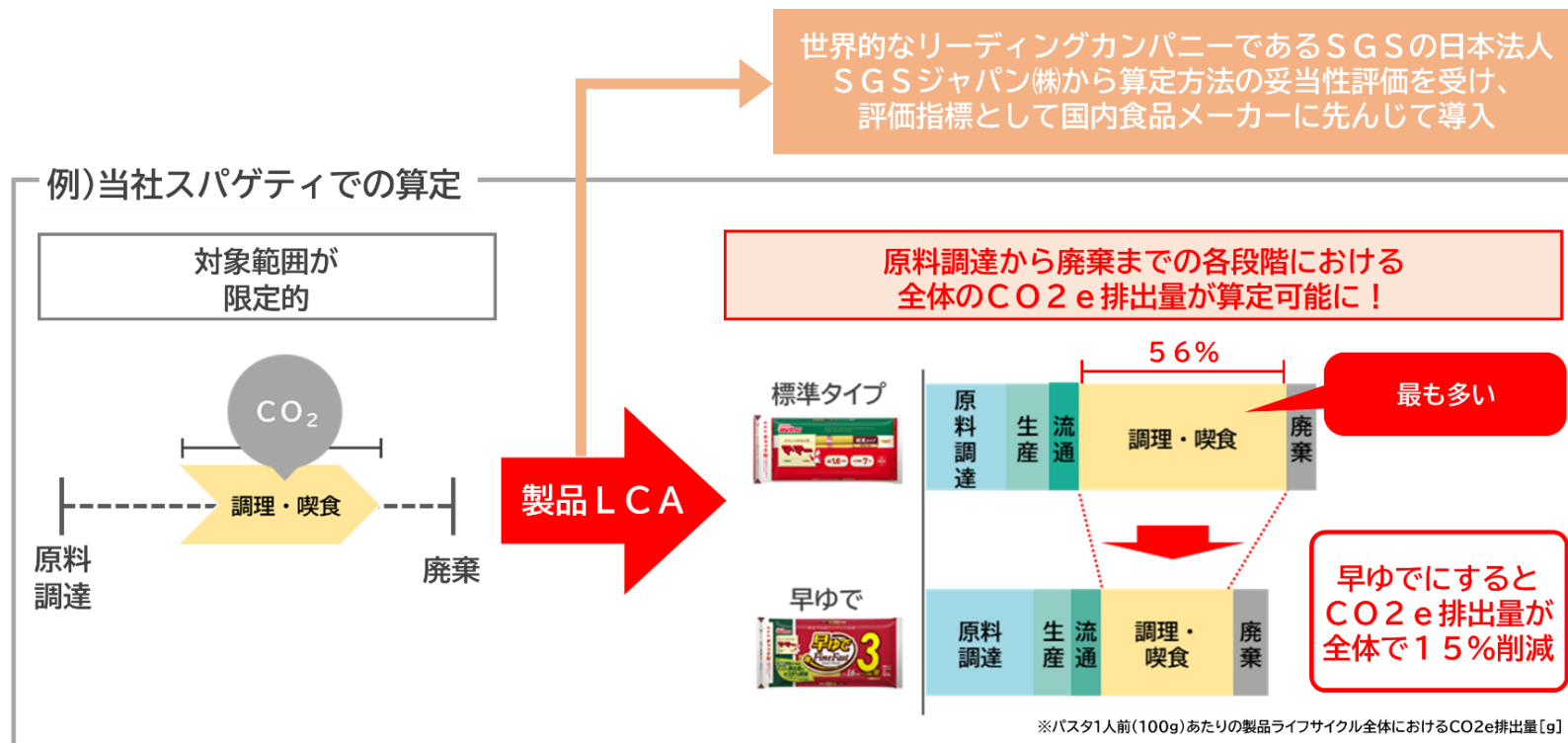
なお当社の算定方法は、ISO14067およびISO14064-1、2の手法を参考にすることで、CO₂e排出量絶対値(g-CO₂e/商品)と相対値(%)の評価が可能となりました。



以上

«この件に関する報道関係者のお問い合わせ先»
株式会社日清製粉グループ本社 総務本部 広報部 担当：山口・浅倉・神田
電話：03-5282-6650 (お問合せフォームは[こちら](#))

(※別紙) 製品ライフサイクルアセスメント (製品LCA) 導入と評価指標としての活用に関するイメージ図
 ~消費者とともに持続可能な社会の実現へ~



※詳細についてはリリース本文をご確認ください。